

令和7年 鳥取市政10大ニュース

順位	項目	説明文
1	鳥取駅に自動改札機、ICOCAが鉄道でも利用可能に	鳥取市は、市民や観光客の利便性向上を目的に、公共交通へのキャッシュレスシステム（電子マネーなどで運賃を支払う）の導入を進めています。JR西日本が3月15日からICカード対応の改札機をJR鳥取駅～倉吉駅間の各駅に設置し、交通系ICカード「ICOCA」で列車運賃を支払うことができるようになりました。100円循環バス「くる梨」では、令和5年4月からICOCAを導入していて、今回鉄道の駅にもICOCAが導入されたことで、1枚のカードで異なる公共交通機関に乗り換えでき、利便性が大幅に向上しました。
2	令和によみがえる！鳥取城大手門「中ノ御門」	「中ノ御門」は擬宝珠橋袂の「表門」と二階建ての「渡櫓門」で構成されており、令和2年に「表門」、今年「渡櫓門」が復元されたことで「中ノ御門」全体が完成しました。「渡櫓門」は鳥取城内では初の室内空間を備えた本格的な城郭建築の復元で、伝統技術を駆使し、材料の加工や仕上がりなど、細部に至るまで江戸時代の城郭建築が再現されています。4月26日には完成を記念した式典が行われ、多くの市民が中ノ御門のくぐり初めを行いました。
3	大阪・関西万博で鳥取の魅力をPR	4月13日から10月13日までの184日間、大阪・夢洲を会場に開催された大阪・関西万博は通算2557万人が訪れるなど、国内外から訪れた多くの来場者で賑わいました。鳥取市では、万博会場を訪れる来場者に観光PRを行うため、6月6日に開催された「令和の万葉大茶会2025 飛鳥・万博大会」でしゃんしゃん傘踊りを踊り子50人が華やかに披露したほか、7月1日の「今日は一日鳥取県」では、因幡の傘踊りを踊り子13人が勇壮に舞いました。このほか、麒麟のまち圏域1市6町が連携し、7月15日から21日までの一週間に渡り、関西パビリオン多目的エリアで開催された「とっとりフェス～お祭り縁日～」に出展し、観光PRを大体的に行いました。
4	姉妹都市提携周年記念で交流事業（山口県岩国市と30周年・福島県郡山市と20周年）	山口県岩国市とは、1581（天正9）年、鳥取城主であった吉川経家が羽柴秀吉との合戦の際、自らの命と引き換えに家臣や民衆の命を救い、その後、経家の子孫が代々岩国藩の家老を務めたことが縁となり、1995（平成7）年10月13日に姉妹都市提携を結び、今年で30周年を迎えました。市長相互訪問では、錦帯橋まつりでの大行列への参列やしゃんしゃん祭りでの傘踊り体験を行いました。また、吉川経家公メモリアルイベントでは岩国市の50人からなる吹奏楽団と、吉川と縁のある江津市と浜田市の市民合唱団による音楽朗読劇が披露されるなど、姉妹都市連携のきっかけとなった歴史を振り返ることで両市の親交を深めました。 福島県郡山市とは、明治13年、旧鳥取藩士族約270人が安積開拓のため郡山の地に移住し、開拓事業を成し遂げたことが縁となり、2005（平成17）年11月25日に姉妹都市提携を結び、今年で20周年を迎えました。記念事業では、双方の会場をオンラインでつなぎ、両市の小学生が伝統工芸である和紙について学び、ランプシェードを作る和紙交流ワークショップを開催し交流を深めました。また、鳥取三十二万石お城まつりやこおりやま産業博での物販ブースの出展や、両市長の相互訪問により、友好の深化と交流の継続を確認しました。
5	わらべ館オープン30周年！	童謡・唱歌とおもちゃのミュージアム わらべ館は、平成7年に開館し、今年オープン30周年を迎えました。開館記念日の7月7日は入場無料になったほか、7月は展示やワークショップ、コンサートなど30周年を記念したイベントが開催されました。子育て世代からは「子どもの時以来久しぶりに来た」という声も聞かれ、親子二世代で楽まれています。また、3月には入館者が350万人を突破し、昨今は海外からの観光客も増えています。

令和7年 鳥取市政10大ニュース

順位	項目	説明文
6	「因幡・但馬麒麟のまち創生総合戦略」を策定	「麒麟のまち圏域」（鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町、香美町、新温泉町）ではこれまで、単独の市町では解決が困難な課題を共有しながら、県境を越え連携して圏域全体の持続的・一体的な発展に取り組んできました。国においては、「地方創生2.0」として地方創生を推進する5つの柱を設け、その1つに「広域リージョン連携」（都道府県域を超えた広域連携の新たな枠組み）を位置づけることを表明しました。麒麟のまち圏域の連携は、「地方創生2.0」の実現につながる重要な取り組みであると考え、これらをさらに深化・発展させ、より効果的に推進するため、「圏域版の総合戦略」を策定し、1市6町が心を一つに取り組みを進めていきます。
7	鳥取砂丘の魅力がさらに充実！	鳥取砂丘は、大阪・関西万博開催の波及効果や砂の美術館第16期展示「砂で世界旅行・日本」の人気などもあり、年間を通じて国内外から多くの観光客で賑わいました。特に砂の美術館では、富士山や姫路城などの世界遺産をはじめ、国生み神話の時代から江戸時代を経て、現代に至る歴史の一場面や日本文化を砂像で表現し、圧倒的なスケールかつ繊細な造形美が多くの人々を魅了しました。また、8月1日からは鳥取砂丘周辺の観光二次交通の強化を図るため、市街地や鳥取砂丘を結ぶ「観光シェアサイクル」と鳥取砂丘東西間を周遊するタクシー「Sakyutto（さきゅっと）」を定時運行する実証事業を実施し、鳥取砂丘を訪れる観光客の周遊や滞在環境の向上を図りました。
8	「新たな文化施設の整備に関する基本構想」の策定を進める	鳥取市には、市民の文化芸術活動の拠点となる施設として、市民会館、文化センター・ホール、福祉文化会館の4施設があり、市民の活動を支えてきましたが、いずれの施設も稼働から50年前後が経過し、施設・設備の老朽化などの課題を抱えています。この4施設の再編に向け、市民アンケートやワークショップ、有識者会議を開催し、今後の新たな文化施設の整備に関する考え方を定める「新たな文化施設の整備に関する基本構想」の策定に向けた取り組みを進めました。この基本構想では、既存施設の取扱いや再編後の施設規模など、施設の再編・統合に関する基本的な考え方や、新たな文化施設に導入する機能やその規模、スケジュールなどを定める予定であり、令和8年3月策定を目指します。
9	市政改革プラン（第8次鳥取市行財政改革大綱）策定	鳥取市の健全な行財政運営を推進するため、「明るい未来のための安定的で持続可能な行財政基盤の確立」を基本目標とする、行財政改革の取組指針を定めた市政改革プランを策定しました。令和7年度から11年度までの5年間の計画期間として、効率的な執行体制を構築するための組織体制の強化や人材確保、民間活力の利用、ファシリティマネジメントの推進、スマート自治体の実現など、幅広い分野にわたって個々の取り組みを実施していくことで、基本目標の達成を目指します。
10	「株式会社スマートエネルギーとっとり」を設立し事業を開始	鳥取市は、令和5年4月に環境省の「脱炭素先行地域」に選定され、2030年までに電力使用に伴うカーボンニュートラルと地方創生を同時に実現するために、若葉台地域と佐治町において地域脱炭素の様々な取り組みを進めています。取り組みを一層加速し推進させるため、このたび5者（鳥取市・ダイヤモンド電機株式会社・株式会社城洋・株式会社市民エネルギーとっとり・株式会社鳥取銀行）共同で「株式会社スマートエネルギーとっとり」を設立し、今年1月から事業を開始しました。主な事業として、戸建住宅などへ太陽光発電設備や蓄電池、高効率給湯器を導入し、効率的な需給調整により再生可能エネルギーの地産地消を推進する取り組みなどを展開しています。